

## (6) 工学部のグローバル教育について

工学部長 佐古 猛



2015年10月にアジアブリッジプログラム（ABP）による第1期生が静岡大学に入学しました。このプログラムは静岡大学のグローバル教育の中核となるものであり、アジアを中心とする留学生と日本人学生のグローバル教育が大きな柱です。すなわち海外の優秀な留学生を静岡大学に受け入れて、学部や大学院で日本の高度な専門教育、日本語、日本文化等について学び、留学生の母国と日本の架け橋の役割を担う人材を育成することを目指しています。一方、日本人学生については、留学生と一緒に勉強したり、英語による授業を受けることにより英語力の向上、異文化の理解を深めることを目指しています。

10月の入学式には、工学部の6名、大学院の工学専攻（修士課程）の27名の留学生が出席しました。工学部に入学した留学生は、今年4月から日本人学生と一緒に勉強するために、半年間、日本語と理数系基礎科目の集中トレーニングを受けました。一方、大学院の工学専攻に入学した留学生は、英語による専門講義、研究室のゼミ、修論作成のための研究に取り組んでいます。留学生は全員、日本で先端の科学技術を勉強できることや日本人を含む外国人と知り合えることを期待しています。また日本人学生にとっても、身近なところに外国人の同級生がいることはグローバル人材になるための絶好の機会です。

工学部のグローバル教育に不可欠な外国人教員の採用について、今年4月に5学科全てに1名ずつ配属しました。既に電気電子工学科、電子物質科学科、化学バイオ工学科では外国人教員による英語授業が始まっています。更に電子物質科学科、化学バイオ工学科では、外国人教員の研究室に日本人学生を配属し、卒業研究が行われています。いずれの外国人教員も教育に熱心で、ていねいに学生指導を行っており、教員や学生の評判は上々です。

最近、近隣の高校から、高校生の英語による成果発表会でコメントをしてほしいとの要望があり、工学部の3名の外国人教員が出席しました。発表の本番では、外国人教員からリハーサルの時に指摘されていない部分について質問があり、高校生はかなり緊張したようでしたが、大変大きな刺激になったと高校から感謝の言葉がありました。

今後、外国人教員が定着し、グローバル教育の一端を担うことが工学部の将来にとって重要です。更にeラーニングによる英語の自学学習システムを充実し、学生の短・中期の海外研修も検討しています。皆様のご支援、ご協力をお願いします。